



市民活動センター

# くるりん通信

# 12

2015年  
VOL.05  
年末号

発行元：安曇野市市民生活部地域づくり課 市民活動センター「くるりん広場」  
〒399-8303 長野県安曇野市穂高 6658 番地 ☎0263-82-1922



## 特集

## くるりん講座 27 第 6 回 応援します♥スマイル育児 **PART2** 子どもの『育つ力』を信じる

12月5日、市役所本庁舎大会議室において『くるりん講座 27』第6回を開講しました。前回に引き続き、松本短期大学教授の内藤美智子先生をお招きし、子育てについてのお話をうかがいました。

### 【contents】

内藤先生のおはなし  
Voice～参加の皆さん  
からの声



### ♥お母さんたちと一緒に♥

今回は託児を設けず、セミナー会場でお母さんたちの横でお遊びしながらの開講でした。



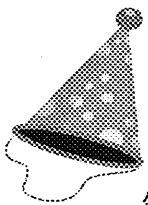
# Report

## くるりん講座 27

今回の内藤先生のお話の中心は、子ども自身が「育つ力」。講義の内容、特に大切なポイントや考え方など、参加者の方々の声や感想などをレポートします。



講師：内藤美智子先生



### 「生きる力」を体得するのは「遊び」の中から…ゆったりと楽しむこと

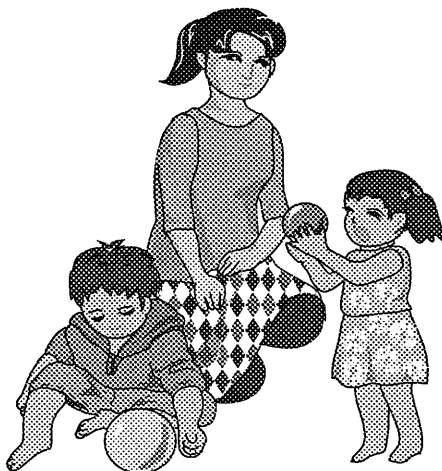
生まれた直後の新生児には、先天的に生きるために、大きな能力が備わっています。

たとえば、乳幼児は活動や生活そのものが遊びです。『母乳のあそび飲み』は、母親に向かい相手をして欲しいというサインです。すでにこうした行為そのものが**コミュニケーション能力**を発揮していることなのです。

子どもは**主体的な遊びの中から**、未来に向けて生きる力の基礎を自己獲得していきます。親や保護者はこうした子どもの自発的な言動や行為を尊重し、寄り添い、見守り、必要に応じ手助けする。  
(このさじ加減が難しいのですが…)

### 自然との触れあいの大切さ

- ◆5感（見る、触る、嗅ぐ、しゃぶる、聞く）をフル稼働しながら「学ぶ力」を培っています。
- ◆5感を使って自然や環境と交流しながら心を育てます。
- ◆四季の移ろいや動植物との触れあいを通じ、生命が循環している情操を学びます。
- ◆子どもは、自然や取り巻く環境に対して「～したらどうなるかな?」「どうしたらよいか?」を考え判断し行動に移します。上手くいけば自信がつき、意欲的に挑戦する力になります。また、逆にうまくいかなければ「じゃあ今度はどうしようか」と修正を図ろうとします。この体験の繰り返しが、**ものごとを解決する力**を育てるのです。

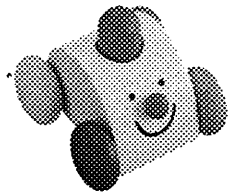


### 挫折乗り越える力を ～内藤美智子先生のコラムより～

(前文略) 親の役割は、挫折や失敗のない順調な人生を歩めるように子どもを導くことではなく、苦しい体験を力に変え、人生を切り開いていける本当の強さを、子どもに伝授することでしょう。

そのために、まず親自身が、挫折や困難に負けない、しなやかな心を身につけたいものです。

(2012.5.24 信濃毎日新聞より抜粋)



## たくましい、しなやかな心

心が折れそう、心がくじけてしまった状態の時、剛健な大木ではなく、風雪に耐える竹のようなしなやかさな力があれば、困難な場面が訪れても折れることなく、柔軟に対応することができます。




## レジリエンスを育てるためには…

子どもは自分の良いところを認めて、褒めてくれる人がいることによって、自分自身を肯定的に受けとめるようになります。この自己肯定感がレジリエンスに繋がっていきます。

わが子が挫折を味わった時、結果に注視するのではなく、それまで**がんばってきた努力の過程を認めてあげる**ことが、子どもの次への力になります。

**※レジリエンス (resilience)**  
 心理学用語で、「精神的回復力」「復元力」「抵抗力」「弾性力」などを意味します。



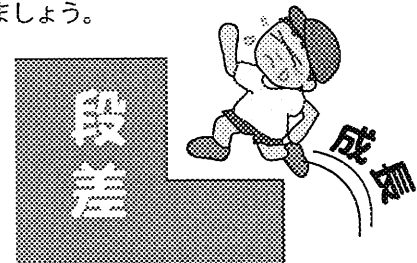
## 主体的に遊ぶことの重要性

幼児教育・保育の時期は、子どもが主体的に遊ぶことを重視します。→**〈自らの遊びを展開させる力〉の体得**。その直接的な体験により

**〈人間関係を作る力〉〈自己を抑制する力〉**を育みます。ところが、小学校にあがると「遊び」は「勉強」と対極的にとらえられ遊びの評価は徐々に下がってしまいます。忘れがちですが、子どもは本来の遊び**〈自由に発想し展開する活動〉**の中から生きていくための様々な力を得ているのです。

## 「段差」の克服～小1プロブレム～

園から小学校に入学した児童が陥る心の戸惑いは計り知れません。子どもは、生活や環境が大きく変わるこの時期にこそ、それまでに培った力を全開します。この**段差を乗り越えようと頑張る過程**そのものが意味があり、その過程こそが次への力の源なのだと信じてあげましょう。



# Voice

参加された皆さんのアンケートより

子育ては楽しいですが、大変さや辛さも感じます。「自立する」「子どもはひとりでもできる…」ことを忘れずにいたい。

Sさん：3児のお母さん

上の子(6歳)はすでに「待つ子」に育ってしまっています。与えられたものだけでなく自分で工夫して考える力を育ててあげたいです。

(抜粋)

Fさん：2児のお母さん

休みの口癖が「宿題したの？」になっているので、子ども目線で見ることを気持ちの余裕をもってしたいと思いました。

Mさん：4児のお母さん



子どもたちが自ら発達、成長できるように、その裏で、日々子どもを観察し、環境を用意し支え、見守ることの大切さと責任をあらためて感じた時間でした。

Hさん：3児のお母さん

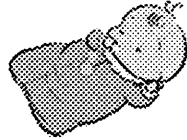


子育て中でなくても、大変考えさせられたり勉強になり、心が豊かになりました。

Oさん：子育て支援NPO 理事長

# ビビッドな団体編

地域で輝くビビッドな人物や団体をご紹介。  
今回は堀金地区でNPO法人「ママの働き方  
応援隊」の活動を展開している塩瀬さんと  
藤原さんにお話をうかがいました。



## ♥活動のきっかけは？

上の子(3児の母)が年中になるまで、子どもにかかりっ  
がり、社会との関わりがまったくなく孤立していました。  
ママ友で知った「NPO 法人ママの働き方応援隊」(本部：  
神戸)の活動を知り、これだ!と思いました。

子育てそのものが、女性の社会参加、キャリア形成と  
ライフプラン、そしてやりがいに繋がる活動なんだとい  
う考え方が、外へ出る大きな力になりました。

今は、堀金を拠点にママ友の仲間を中心に、この活動  
を広げています。(塩瀬さん)



「ママの働き方応援隊」  
メンバー会議▶

## ♥活動内容

ママと赤ちゃん(0歳~3歳児)が、教育機関や高齢者  
施設などへ出かけ、無垢な赤ちゃんとの触れ合いの中から、  
子どもさんや普段接することが少ない高齢者の方々に、癒  
し、笑顔、命の尊厳、大切さを伝えます。(藤原さん)



訪問先の小学校で

# Mamahata

## ♥訪問先では…

**高齢者施設**……赤ちゃんを見ると皆さん笑顔になり、癒  
しを感じていただいています。「命の交流」とでもいうので  
しょうか? 一方ママたちも人生の大先輩からお話を聞  
くことができ、日々の子育てに役立っています。

**小中学校**……赤ちゃん先生とママ講師との交流から、子  
どもたちに「成長する命」を実感する、気づきの場となっ  
てもらいようなお話をします。

**高校・大学**……赤ちゃんとママ講師の姿を通し、学生さ  
んたちの将来の職業や社会観、ライフプラン形成に貴重  
な体験となるような話を行ないます。(藤原さん)

## ♥苦勞していることは？

ワークショップや、ママのキャリア形成の講座、子ど  
もの知育授業も開催したいのですが、いつも会場の確保  
に苦勞していて、協力、賛同してくれる団体や企業を探  
したり、お願いに上がったりしています。(塩瀬さん)

会場をさがしています

来年2月9日(火)

手形アート  
お子さんの今を残そう

申込・問い合わせ先

harukashiose@gmail.com  
kumiqvq818415mamani  
@gmail.com

「ママはた」堀金/塩瀬、藤原

【くるりん講座27】第7回のお知らせ

地域づくりは  
お互いさまの活動

その③仕組みづくり編

講師/案内役

山岸 久美子 さん

市社会福祉協議会

(ボランティアコーディネーター)

日時 **1/21 木**  
10:00~12:00

会場 共用会議室 305

(安曇野市役所本庁舎3F)

参加料 無料